

も い 森 林 の 話

第7話

後志森林管理署

加藤 巧

採用二年目の若手職員のコーナーです

業務やプライベートで森林を歩くと、机上では分からない事柄が理解できたり、特定の動植物の種類が判別可能になったりするなど、様々な体験を通じて、それまで気付かなかった物事が「見える」ようになることがあります。

私は物心が付く前から昆虫が好きだったので、大学生になってからは道内各地の森林を訪れ様々な昆虫を観察しています。

クワガタの仲間ヒメオオクワガタという種類がいます。「ヒメ」には「姫」の字が当てられ、「小さい」を意味し体長は大きい個体でも5cm程度です。



ヒメオオクワガタ(め)

先に発見されたオオクワガタに体型が酷似する小さいク

ワガタという理由で、この名前が付けられました。

ヒメオオクワガタは全国的に広く分布していますが、一八八〇年代の開拓期に道南の七飯(ななえ)町等で初めて発見されたという北海道に縁のあるクワガタです。



ヒメオオクワガタの好む生息環境

ヒメオオクワガタの生態は特殊で、一九八〇年代に詳しく解明されるまでの約一世紀の間、非常に珍しい昆虫と思われる、路上を歩く個体が偶発的に見つかる程度でした。

その原因は発生時期や活動時間帯、生息環境が特異なことにあります。一般的なクワ

ガタの発生時期は夏ですが、ヒメオオクワガタは晩夏から秋にかけて発生します。

また、活動する時間帯は日中のみで、他のクワガタのように夜間外灯に飛来することはほぼありません。暑いところが苦手なため、多くの昆虫が好む樹木の生い茂った雑木林ではなく、樹木がまばらで風通しの良い高山的な環境に近い場所を好みます。

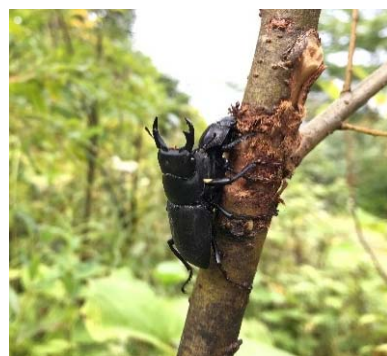
彼らは、そのような環境にあるヤナギやカンバ類の幼木の幹や枝を傷付け、滲み出てくる樹液を吸って生活していたのです。

ヒメオオクワガタの生態が解明された今日では、努力次第で観察が可能になりました。

私はこのクワガタを自力で見つけようと、数年間に渡って探しましたが、特殊な生態のためなかなか出会えずにいました。

しかし、昨年、偶然にも多数の個体を観察する機会に恵

まれ、その経験から私にとつてついに「見える」昆虫になりました。



ヤナギの樹液に集まる雌雄

この「見える」昆虫になった話は一例に過ぎず、一年を通して森林を中心としたフィールドで業務を経験している間に、樹種の名前など以前よりも少しずつ分かるようになり、視野が広がりました。

今後とも知識のみならず、実体験を大切にし、森林の様々なことが「見える」ように能力・感覚を研ぎ澄ませていきたいと思っています。